

ポンプティー

型式：EP-100D

取扱説明書

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

本書に記載した△の表示のある注意事項や、機械に貼られた△の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。また、△の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した△の表示のある注意事項や、機械に貼られた△の表示のあるラベルでは、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

- △ 危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
- △ 警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
- △ 注意…その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

なお、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については、本書に【重要】の表示を用いています。

一目 次ー

- ◇ 安全のために必ずお守りください……①
 - 作業前
 - 農薬・薬液の取り扱い
 - 作業中
 - 作業後と保管
- ◇ 仕様……………③
- ◇ ポンプ及び噴口性能表……………③
- ◇ 桜包部品一覧……………④
- ◇ 各部の名称とラベル貼付位置……………⑤
- ◇ 運転を始めるまえに……………⑥
- ◇ 運転……………⑧
- ◇ 整備と長期保管……………⑪
- ◇ 故障と対策……………⑬



株式会社 麻 場

本社／〒381-8530 長野市北長池1443-2

TEL : 026-244-1317

URL : <http://www.asaba-mfg.com>

680022120-2016.12

＜安全のために必ずお守りください＞

★作業前

- ・火災の恐れがあるので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 - ・燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は、火気には充分注意してください。
 - ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
 - ・燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・使用時は燃料がこぼれたり、本機が転倒する恐れがありますので、本機は凸凹のない平らな場所に設置してください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合や、自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

△ 注意

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気を含む者
 - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
 - ・妊娠中の者
 - ・満15歳未満の者
 - ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損がないこと等、各部に異常がないことを確認してください。
- ・吸水ホース、余水ホースは、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがなく、薬液タンクから飛び出さないよう薬液タンクに固定してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- ・この製品を他人に貸与、または譲渡する場合は、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するように指導してください。

★農薬・薬液の取り扱い

- △ 危険
 - ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外は、使用しないでください。
 - ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
 - ・農薬は、必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器と一緒に保管しないでください。
 - ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
 - ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従ってその都度正しく処分してください。空容器を洗った水は、薬害のない方法で処分してください。

★作業中



- 農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- 運転中および、停止直後のエンジン（マフラー等）は、高温になっています。やけどのする恐れがありますので、不用意に触れないでください。
- ハウス内での使用は、人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。



- 薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかかるないように、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- 作業中にめまいや頭痛を感じたり、気分が少しでも悪くなったときは、直ちに医師の診察を受けてください。
- 作業中に噴口部の清掃、または交換する時は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、吐出ホース先のポールコック、及び噴口を閉じ、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせ、エンジンを停止してから行ってください。
- ホース類は、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ホースの温度は、40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。



注意

重要

- 前回使用した薬液が、薬液タンク、ホース、噴口等の内部に残っていると、薬害を起こす危険性があります。残っている薬液を充分に洗い流してください。
- 余った薬液、機械の洗浄水、及び空容器を洗った水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- エンジンを止めても、ポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、吐出ホース先のポールコック、及び噴口を開いて、ポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- 作業後は、手足はもちろん、全身を石鹼でよく洗うとともに、目の水洗いをうがいをしてください。また、作業期間中は、衣服を毎日取り替えてください。
- 使用後は、充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

- ホース内の残液を空にして保管してください。そのままにして置きますと、ホースの寿命を短くする原因になります。

＜仕様＞

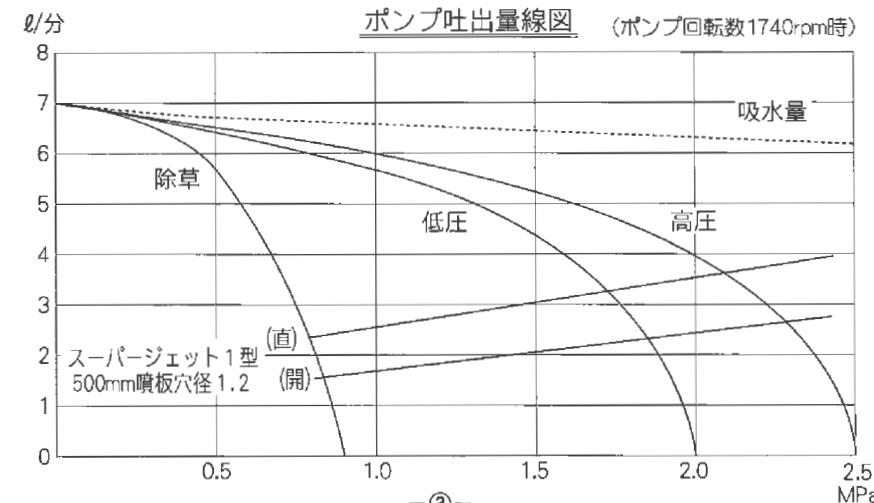
型 式	EP-100D
本機寸法(H×W×L)	310×275×320mm
質 量	6.3kg
ポンプ 形 式	対向2連プランジャー式
ポンプ 吸水量	7.0 ℥/min(1740rpm 圧力: 0MPa時)
ポンプ 最高圧力	2.5MPa
燃料タンク容量	0.65 ℥
エンジン 使用燃料	混合ガソリン (混合比25:1 JASO FC級) (混合比50:1 JASO FD級)
エンジン エンジン型式	ASABA D26C 空冷2サイクル
エンジン エンジン排気量	25.6cc
エンジン キャブレタ	ダイヤフラム式 ロータリバルブ
エンジン 最高出力	0.74kW(1.0PS)/7500rpm
エンジン 点火方式	フライホイールマグネット
エンジン スパークプラグ	チャンピオン CJ6Y
エンジン 始動方式	アシスト式リコイルスター

※上記の性能値は清水にて運転した当社テスト値であり、保証値ではありません。
使用環境によりその値は変化します。

※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

※潤滑油混合ガソリンには必ずFC等級(JASO)以上をご使用ください。

＜ポンプ及び噴口性能表＞



＜梱包部品一覧＞

最初に、梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし、欠品または破損などありましたら、製品名、型式、製造番号と共にお買い求めの販売店にお知らせください。

保証書は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

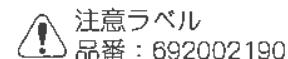
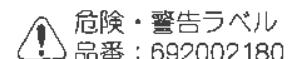
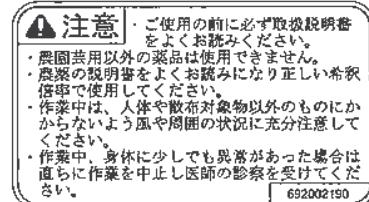
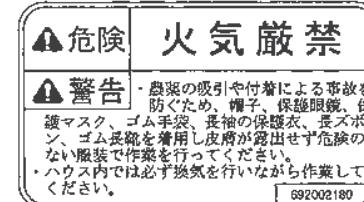
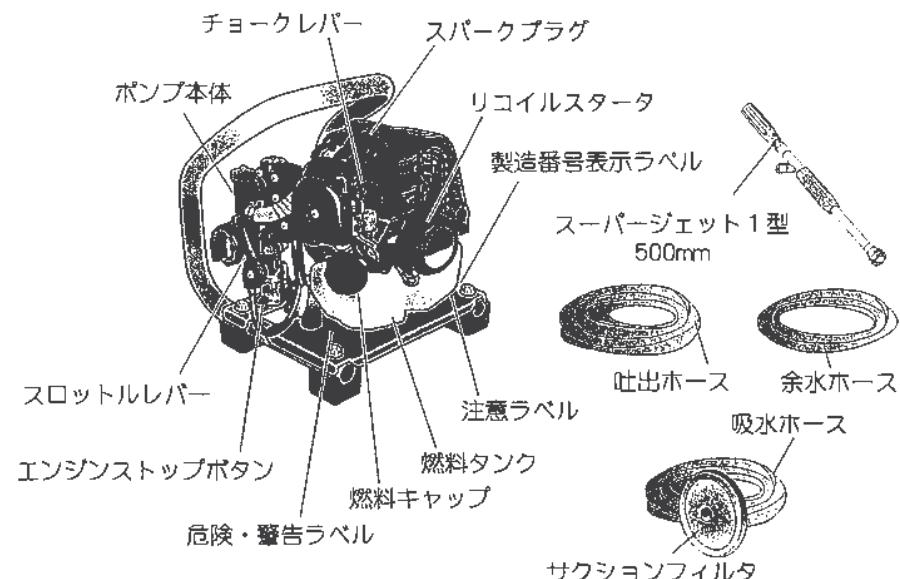
部品	数量
ホースより戻し G1/4	1
ポールコック 6 G1/4	1
余水ホース (2 m)	1
吸水ホース (2 m)	1
吐出ホース (10 m)	1
サクションフィルタ	1
スーパージェット 1型500mm (噴板穴径 1.2)	1
ワイヤバンド	1
本体部一式	1
取扱説明書 (本書)	1
保証書 (本書末尾)	1

注意) ポールコック 6 G1/4、ホースより戻し G1/4 は、吐出ホースに組み付けてあります。

△注意

・余水、吸水、吐出ホースとスーパージェット 1型500mmは本機専用部品です。他製品で使用した場合、ホースの破裂、噴口の破損等が考えられますので、他の製品には使用しないでください。

＜各部の名称とラベル貼付位置＞

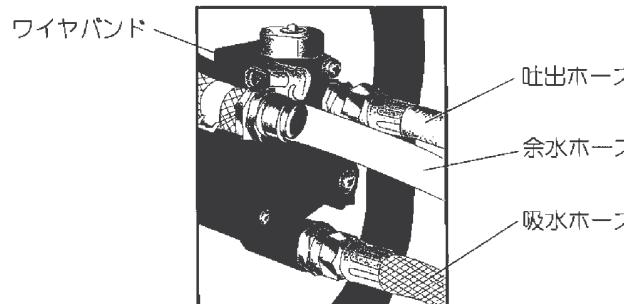


- △の表示のラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い求めの販売店にラベル名と品番を注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- 新しいラベルを貼るときは、汚れをふき取り、乾いた面にして、もとの位置に貼ってください。

＜運転を始めるまえに＞

①部品の取り付け

1) 下図のように、吸水ホース、余水ホースを正しく確実に取り付けてください。

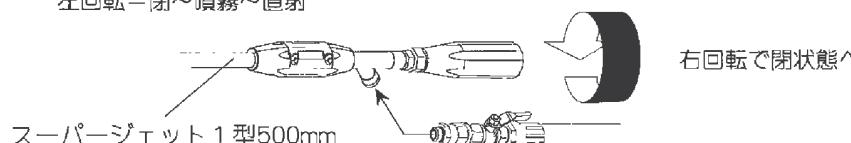


重要

- ・吸水ホースは、確実に取り付けないと吸水しません。
- ・吸水ホースには、必ずサクションフィルタを取り付けてください。
サクションフィルタを取り付けない場合、ポンプが故障する原因になります。

△注意

- ・余水ホースは、ワイヤバンドで確実に取り付けないと、薬液が噴き出します。
- 2) 吐出ホースには、ホースより戻し、ポールコックが組み付けてありますので、噴口だけを取り付けてください。
- 3) 本機には標準噴口として、スーパージェット1型500mm（噴板穴径1.2）が付属しています。他の噴口を使用する場合、噴口によっては性能を保証できないものもありますので、《ポンプ及び噴口性能表》を参照して、スーパージェット1型500mm（噴板穴径1.2）と同等の噴口を選択してください。
- 4) スーパージェット1型500mmの調整は、閉～噴霧～直射が、手元握りにより連続調節できます。
左回転＝閉～噴霧～直射

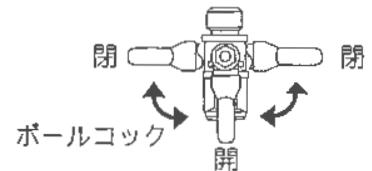


△注意

- ・突然の噴霧防止のため作業終了時は、必ず吐出ホース先のポールコックを閉じてください。
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。
- ・吸水ホース、余水ホースは、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがなく、薬液タンクから飛び出さないよう、薬液タンクに固定してください。

②ポールコックの取り扱い

レバーの向きにより、開閉を行います。



③薬液の調合、充填

△注意

- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・薬液を入れる前に、必ずエンジンは停止させ、吐出ホース先のポールコック及び、噴口は、閉じた状態にしてから薬液を入れてください。

重要

- ・土壤消毒剤、土壤燻蒸剤は、故障の原因となりますので使用しないでください。

④燃料の充填

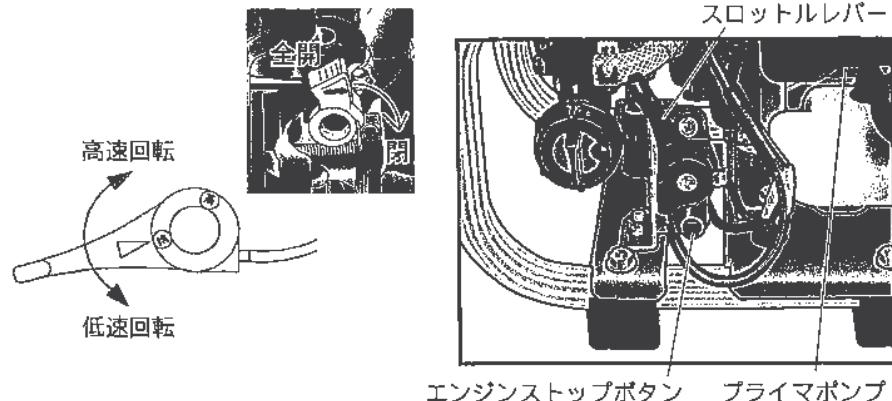
重要

- ・燃料は、必ず潤滑油混合ガソリンを使用してください。
- ・混合比は、自動車用無鉛ガソリン25に対して、FC等級(JASO)以上の2サイクルエンジン専用オイル1の割合で混合してください。エンジンの性能を充分に引き出すため、使い初めの20時間前後は、オイルを多めに入れて（ガソリン：オイル=20：1）慣らし運転を行ってください。
- ・燃料の混合は、本体の燃料タンクで行わず、必ず別容器を用いてください。
- ・2サイクルエンジン専用オイルは必ずFC等級(JASO)以上をご使用ください。FC級未満のオイルをご使用されますと、エンジン本来の性能が発揮されない恐れがあります。

△危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
- ・燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
- ・燃料補給時は、火気には充分注意してください。
- ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
- ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
- ・燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってください。
- ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料を充填後、定置使用する場合や、自動車などで運搬する場合は、燃料がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

<運転>



【注意】 防除作業以外の時は、液漏れや、突然の噴霧防止のため、ボールコックは必ず閉じた状態にしてください。始動前には必ず確認してください。

①始動（エンジンが冷えている場合）

- 1) 調圧弁ダイヤルを、『始動：0』の位置に合わせます。
- 2) スロットルレバーを、低速回転側（アイドル回転側）に合わせます。
- 3) チョークレバーを、『閉』の位置に合わせます。
- 4) キャブレタのプライマポンプを、指で4～5回押してキャブレタに燃料を充分に送り込みます。
- 5) エンジンを手で押さえ、リコイルスタータを引っ張り、混合気をシリンダに吸い込みます。改めて、リコイルスタータを引っ張るとエンジンが始動します。
※）アシスト式リコイルの為、勢いよく引っ張る必要はありません。
- 6) エンジンが始またら、低速回転のまま1～2分間暖気運転を行ってください。
暖機運転が終了し、スロットルレバーを低速回転側から高速回転側へ操作すると、チョークレバーは自動的に『全開』になります。

②再始動（エンジンが暖まっている場合）

- 1) 運転停止直後に再始動するときは、チョークレバーを『全開』にして始動します。
始動しない場合は、エンジンが冷えている場合の始動法を始めから行ってください。

重要

- ・リコイルスタータのロープは、一杯に引ききらないでください。
- ・引いたロープを手離さないで、静かにもとに戻してください。

③初期吸水作業

作業開始前や薬液補充時には、ポンプ吸水作業が必要です。

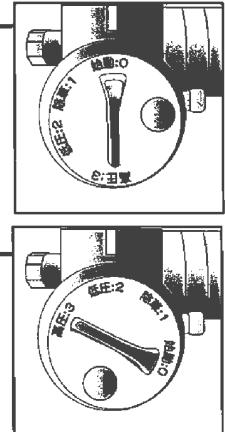
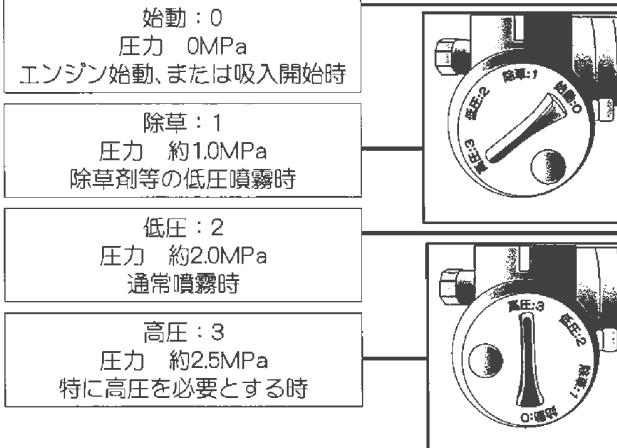
- 1) 必ず調圧弁ダイヤルを「始動：0」の状態にします。
- 2) スロットルレバーを高回転側に操作し、余水ホースから薬液が出るまでポンプを運転します。

重要

- ・リコイルスタータのロープは、一杯に引ききらないでください。
- ・引いたロープを手離さないで、静かにもとに戻してください。

④散布作業

- 1) 調圧弁ダイヤルは『始動：0』、『除草：1』、『低圧：2』、『高圧：3』の位置で「カチッ」と止まります。次の図表を参照し、作業条件に合わせて設定してください。
- 2) エンジン回転が安定する位置にスロットルレバーを調節してください。
- 3) ボールコック及び、噴口を開いて散布作業に入ります。



* 『高圧：3』は、定置運転で100m程度のホースを使用するとき等にご使用ください。
この時のホースによる圧力損失は、内径φ8.5mmホースを使用した場合0.5MPa前後です。

* 上記圧力は、レバーコックを閉じた状態での圧力です。噴霧時の圧力は、使用する噴口の吐出量によって変化しますので、ポンプ性能表を参照してください。

重要

- ・遠心クラッチを使用しています。クラッチが滑るような低速回転での使用は避けてください。（クラッチが滑ると、薬液の吐出が不安定になります。）
- ・作業中に噴霧を一時停止させる時は、噴口を閉じ、スロットルレバーを低速回転側に戻してポンプを停止してください。燃料の節約、エンジン、ポンプの耐久性向上に役立ちます。

【警告】

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せずに、危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および、停止直後のエンジン（マフラー等）は、高温になっています。
やけどをする恐れがありますので、不用意に触れないでください。
- ・ハウス内の使用は、人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。

【注意】

- ・作業中に噴口部を清掃または、交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、吐出ホース先のボールコック及び噴口を閉じ、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせて、エンジンを停止してから行ってください。
- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかかるないように、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなったときは、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ホース類は、エンジン高温部（マフラー等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は、40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

⑤停止

- 1) ポールコック及び、噴口を閉じます。
- 2) スロットルレバーを低速回転側に戻します。
- 3) 調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせます。
- 4) エンジンストップボタンを押して、エンジンを止めます。

重要

- ・使用中に薬液が無くなったときは、速やかにスロットルレバーを低速回転側に戻し、エンジンストップボタンを押してエンジンを停止してください。
- ・ポンプの空運転は故障の原因になります。作業中、整備点検中を問わずに、30秒以上は行わないでください。

⑥使用後のお手入れと保管

- 1) 薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して噴口より吐出させ、ポンプ、ホース、及び、噴口内部を洗浄します。清水が吐出しなくなったら、速やかにエンジンを停止させて、燃料コックを閉じてください。

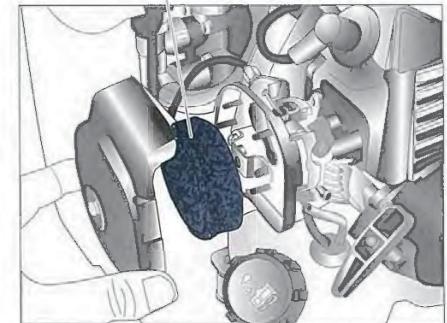
注意

- ・前回使用した薬液が、薬液タンク、ホース、噴口等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。残っている薬液を充分に洗い流してください。
- ・ホース内の残液を空にし保管してください。そのままにして置きますと、ホースの寿命を短くする原因になります。
- ・余った薬液、機械の洗浄水、及び空容器を洗った水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・エンジンを止めてもポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、吐出ホース先のポールコック、及び噴口を開いてポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

＜整備と長期保管＞

* 日的なお手入れは、《運転》の⑥使用後のお手入れと保管をご覧ください。
整備についてのご不明な点は、お買い求めの販売店にご相談ください。

スポンジ

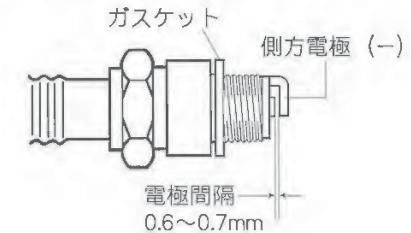


①エアクリーナー

エアクリーナー内のスポンジが汚れていると、吸気が不安定となり、エンジンの性能が充分に発揮されません。時々、エアクリーナーを外し、スポンジをガソリンまたは、洗油で洗浄し、固く絞ってから取り付けてください。

②スパークプラグ

50時間の運転を目安に、スパークプラグの点検清掃を行ってください。ワイヤブラシ等でカーボン堆積物を除去し、電極間隔を0.6～0.7mmに調整します。著しい汚れ、欠損がある場合は、スパークプラグを新品に交換してください。指定スパークプラグは、チャンピオンCJ6Yもしくは相当品です。



③配管

注意

- ・タンク、ホース、接続部分に、ヒビ、割れ、漏れがないか確認します。異常がある場合は、速やかに交換してください。

④ポンプ内部のシール類

2年の使用を目安に、ポンプ内部のシール類の交換をお勧めいたします。シール類の交換については、お買い求めの販売店にご相談ください。
(補修パーツとして、ポンプパッキンセットが用意されています。)

⑤長期保管

長期間（60日以上）に渡って本機を使用しないときは、次の事項を実施してください。

重要

- ・薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して、ポンプやホースを洗浄してください。
- ・冬期間の凍結防止のため、余水ホースと接続ホースをポンプから外して、エンジンを運転し、完全に水抜きを行ってください。この時、必要以上（30秒以上）にポンプの空運転を行わないようにしてください。保管時は、上記のホース、吸水口プラグは、外しておいてください。
- ・燃料タンクの残留燃料を完全に抜き取ります。燃料タンクを空にした後、ブライミングポンプを数回押して、キャブレタ内の燃料を抜いてください。
- ・スパークプラグを外し、スパークプラグ孔から4～5滴のエンジンオイルをシリンドラに流し込みます。スパークプラグを付け、リコイルスタータを2～3度引いて、オイルをシリンドラ内に行き渡らせます。
- ・プラスチック部品は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下します。また、注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので、保管には充分注意してください。

注意

- ・本体、エンジン、ポンプの外部を洗浄し、充分に乾燥させてからカバー等を掛け、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

＜故障と対策＞

①ポンプ

現象	原因	対策
吸水しない	タンクに薬液がない	薬液を補給する
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
	ポンプ内部のシール類が摩耗または、損傷	※
	サクションフィルタの詰まり	サクションフィルタを外し、洗浄する
圧力があがらない または、安定しない	ポンプの回転数が低い	エンジンの回転数を上げる
	遠心クラッチのスリップ	※
	調圧弁の詰まり、または、摩耗、傷	※
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
噴霧状態が悪い	ポンプ内部のシール類が摩耗または、損傷	※
	圧力が上がらない	前述参照
	噴板穴の摩耗	噴板を新品に交換する
液漏れ	噴口が不適切	ポンプ性能に合った噴口を使用する
	ポンプ内部のシール類が摩耗または、損傷	※

ポンプ内部のシール類に関しては、補修パーツ（ポンプパッキンセット）が用意されています。
お買い求めの販売店にご相談ください。

②エンジン始動不能、または、始動困難

現象	原因	対策
キャブレタまでガソリンが来ていない	燃料タンクに燃料がない	燃料を給油する
	ブライミングしていない	ブライミングポンプを4～5回押す
	燃料チューブの詰まり	燃料チューブの清掃、曲がりを矯正する
	燃料タンクキャップの通気穴の詰まり	燃料タンクキャップを清掃する
スパークプラグに火花が飛ばない	スパークプラグの不良	スパークプラグを新品と交換する
	スパークプラグが汚れている	スパークプラグをワイヤブラシ等で清掃する
	スパークプラグの電極間隔が不適	スパークプラグの電極間隔を0.6～0.7mmに調整する
	スパークプラグキャップ不良、または、スパークプラグコード断線	※
	点火装置不良	※
爆発の兆候がない	チョークの開きすぎ	チョークを閉じて始動する
	キャブレタの詰まり、または調整不良	※
スパークプラグが濡れている	チョークの閉じ過ぎ	スパークプラグを乾燥させ、チョーク全開で再始動する
	キャブレタのオーバフロー	※
その他	マフラの詰まり	※
	燃料、オイルの不適切	規定の燃料、オイルを使用する

③エンジンの回転不調、または、出力不足

現象	原因	対策
エンジンが異常に加熱する	燃料不適切	規定の燃料を使用する
	冷却不足	冷却風通路、シリンドラフィンを清掃する
	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	燃焼室にカーボンが堆積している	※
スパークプラグに飛び火花が弱い	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	エアクリーナが汚れている	エアクリーナを清掃する
吸、排気系の不具合	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	マフラーの詰まり	※

④エンジン運転中停止する

現象	原因	対策
運転中、急停止する	ピストンの焼き付き	※
	スパークプラグの短絡	スパークプラグを清掃、電極間隔の調整をする
エンジン回転が次第に下がり、やがて停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	燃料内異物混入	新しい燃料と交換する
エンジン回転が急激に上がり停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する

⑤エンジン停止が困難

現象	原因	対策
エンジンストップボタンのアース不良	エンジンストップボタンのアース不良	配線の点検、交換をする
	スパークプラグ先端部の赤熱	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	ディーゼリング	※

※印の不具合対策に関しては、お買い求めの販売店にご相談ください。

その他、不明な点は、販売店にご相談ください。